

令和 3年 4月 28日

瀬戸市議会議長 富田 宗一 様

厚生文教委員長 朝井 賢次

厚生文教委員会 行政視察報告書

本委員会は、下記のとおり行政視察を実施したので報告します。

記

期 日	令和3年4月16日（金）
視察先	瀬戸SOLAN小学校
視察目的	本年4月に開校した、私立「瀬戸 SOLAN 小学校」の開校後の児童の授業状況やカリキュラムなど教育環境、また学校環境など現地を厚生文教委員9名で視察を実施、長尾理事長と横藤校長先生の説明を受け開校後の状況や児童・生徒の様子など意見交換を行うもの。
視察先の現状・課題等	
・ 当日午前10時より委員9名全員と随員として鈴木議会事務局長、山下委員会担当事務局員、教育政策課や政策推進課など数名で学校を訪問、横藤校長先生から事前の質問事項について説明を頂き、その後、長尾理事長や先生方の案内を頂き構内を視察、説明と併せ約1時間に渡り学年ごとの授業の様子を見て回りました。	
視察先での主な質疑・応答内容	
1. 全児童数38名で4月5日に開校、1年生 10名と9名の2クラス、2年生は12名で1クラス、3年生は7名で1クラスの38名4クラスでスタート。	
1. 担任の先生は日本人の先生1名、外人の先生1名、その他に補助の先生2名が配置され「バディ担任システム」を取り入れてクラス編成が行われている。	

1. 入学の決め手となったのは何ですかの問いに対し、保護者の意見としてカリキュラムの評価、先生方の熱意、英語教育の強化内容、人柄など学びの自由な環境、SOLAN小学校の1人1台のiPadによるICT教育などが入学の決め手となったとのこと。

1. 想定入学者数より少ないことでの、子どもへの影響については、特に影響はないとのことですが、しいて言えば、少数だと発想のふくらみが少ないかもとのこと。

1. 4学期制を取り入れてみえますが、その理由はなぜですか？ について、

- ・3学期制に比べ学期間でフィードバックが出来ること、
- ・家庭学習がし易いこと
- ・海外への短期留学ができること
- ・学校外での習いの機会ができる
- ・児童に対して、教員の指導の修正について見直しが計れる

など、いろいろな視点での利点が想定できるとのことです。4学期制を推進しているとの説明であった。

#### 考察及び所感（各委員所感集約）

1年生から3年生までの授業参観で感じたことは、低学年で英語での授業風景が違和感なく、子ども達が取り組んでいることが自然体として感じたこと。

現状の児童数に対し1クラス2名の先生が担任して見えることで、子ども達に目が行き届き、子ども達も先生の気配を感じる距離感を身近に感じました。

私立であるがゆえに、独自の特徴有る教育方針で取り組み保護者の理解を得、子ども達にゆとりを感じさせる目の届く教員の配置など、私学ならではの特徴が現れていると思います。それが授業料にも繋がり、毎日のように問い合わせや面談が有るとのことですが、公立では難しい環境だと考えます。

今後この教育方針で理解ある保護者の方と共に、積極性のある個性を活かした教育指導をすすめて頂き、市内の公立の学校の児童、生徒との相互の交流が図るなど今後のSOLAN小学校の歴史を刻んでいかれることを願います。

今回の視察における質問は、学習カリキュラムを含めた児童の学校生活についてのみに限られた報告であります。児童の様子や、校長先生のお話を伺ったとこ

ろ、38人の入学者のなかで、瀬戸 SOLAN 小に対する期待が二極化されていないかという懸念を抱いた。つまり、新しい教育理念や ICT の活用、英語教育などによる本校が言うところの世界のリーダーを目指す方々と、特段の事情や学習の遅れなどによって本校に期待してきた方々とで、今後大きな溝が生じないかが懸念される。それを多様化と捉えて、教育の好期とするかは学校次第だが、個人的には、この二極化と多様化は違うものだと考える。今後開かれる審議会において、どのような議論が交わされ、どんなアクションとなるかは、注視していく必要があると考えます。

先生と児童の生き活きとした表情と活気が好印象でした。校舎の各施設の立派さも感心しました。本校の教育目標が達成出来るといいですね。次年度以降児童数も着実に増えて充実した学校環境が整う事を期待します。

『有名大学や一流企業を目指すのではなく多様化する社会の中で自ら考え行動して生き抜いていく力をつける』という教育方針に感銘した。

100%英語のアメリカンスクールのようにではなく英語の比率が40パーセントで授業を行い、子供たちには英語と日本語で語りかける授業スタイルは理想的であると感じた。明るい雰囲気子どもたちにやる気を出させている様でした。

更に児童が増え、教育環境が整うといいですね。市内の小学校もいい意味でお互いに刺激になると尚よろしいかと思えます。偏差値型教育から探究型教育へ新しい考え方の転換に注目していくべきである。

子供の頃から競争に勝ち抜くことを求められ、有名大学、上場会社に進むことを親や先生から期待されていたがここ瀬戸 SOLAN 小学校には日本にありがちな「こうでなければならない」といった枠がなく独自の哲学と横藤校長先生のやる気を感じた。ICT 技術を学び、将来 世界的な起業家が生まれることを期待します。

教育に対しての理念と理想は、私立の小学校らしさが感じられた。実際におやつタイムは、学校の自由度を表わしていた。しかし、今後どんな希望をもった親達が多いかによって、姿を変えていかなければならないように思った。私立の学校は経営と学校理念との両立が難しいと思う。しかしながら、本市の教育的評価にプラスになるよう学校経営を進められようとする意志は伝わった。

新設の私立の小学校の準備・開校の様子を見せていただき大変貴重な機会でした。元来子どもたちは多様であり、その多様な子どもたちを受けとめる受け皿としての学校や社会が、子どもたちの多様性に追いついていないのが現状と考えています。

子どもや家庭にとっての選択肢が広がることは大切なことであり、何回かの先生方の教育に関する説明には共感する部分も多くありました。

しかし、高額な授業料や入学金が払えなければ選ぶことができません。現在の日本の教育の在り方も問われていると感じました。

瀬戸市は、構造改革特区認定の株式会社立の学校運営・経営をチェックする重要な役割を果たしていかなければならず、学校運営・経営についての学びも深めていきたいと思っています。

以上